

2 コラム RAMPWAY  
泉 麻人

特集 顧客満足

5 経営戦略としての顧客満足

日本能率協会コンサルティング  
シニア・コンサルタント  
渡邊 聡

9 8秒間のおもてなし

接客講師・コンサルタント オフィス・カノン 代表  
鈴木美貴子

12 コラム バイ・ザ・ウェイ 太田治子

14 CHALLENGE  
安全をつくるのは、誰か?

15 データ物語  
満足度向上のカギは、「車の流れ」

16 首都高HEADLINE

18 business essay  
わたしたちが「満足」するとき

名古屋工業大学准教授  
小田 亮

20 つくる人まもる人

首都高速道路サービス株式会社  
石田義高／山口 崇

22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito  
contents produced by  
Metropolitan Expressway Company Limited

illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 16

首都高名所案内  
原三溪の庭を  
眺めに本牧へ

コラムニスト  
泉 麻人

久しぶりに横浜方面へとドライブをした。今回の目的地は本牧の三溪園。横浜の市街は若い頃から何度も車で走っているけれど、ここはまだ訪ねたことがない。三溪園のすぐ脇にも首都高の出入口があるようだが、新山下で高速を降りて一般道を南下した。本牧通りに入ると、沿道にマイカル本牧のビル群が見えてくる。この一帯が開発されたのは、まさにバブル時代の盛り

少し小さな庭園をイメージしていたのだが、これほど大そうな場所とは知らなかった。山に仕切られて、周辺のビルなどは視界に入らない。

園名は明治後期から大正にかけて財を成した、実業家・原三溪(富太郎)に由来する。そもそも先代の原善三郎が横浜の豪商として知られた人物というが、ここに婿入りした三溪は主に絹貿易で富を築く(あの富岡製糸場も民間私下げ後、三井から引き継いで一時期経営していた)。そして、財産の使い道として芸術家の育成に励み、趣きのある寺や民家を買収して、広大な日本庭園を造りあげた。いまどきの古民家園や歴史テーマパークの先駆けともいえるが、明治39年開園するのはすごい。

園の一角に、とりわけ立派な茅葺き屋根を見せた「鶴翔閣」は原の家族が住まいとして使っていた建物。見取図によると、客間棟や楽室棟、書斎棟……いくつもの部屋があり、三溪と親交の深かった横山大観や下村観山ら多くの芸術家が訪れ、ときに泊りこんで創作活動にも使われたという。この建物の内部は見学しなかったのだが、惜しくもこの日は団体予約が入っていて断念した。礼服の人たちが入っていく

の頃。取材にやってきて、フィッシャーマンズワーフの風の鮮魚売場の巨大な生けすで泳ぐ、時価30ウン万のクエを眺めたことを思い出す。

桜並木の横道に入っていくと、やがて三溪園の門口に突きあたった。園内に入って、まずその規模に驚かされた。広々とした池の向こうの小山の上には三重塔が聳えたち、麓の林の合い間に古い屋敷がぼつぼつと見える。もう

のを見掛けたから、婚礼の催しに使われていたのかもしれない。

鎌倉・東慶寺の仏堂、白川郷の合掌造住宅、京都・西方寺の薬医門……様々な移築物件が配置されているが、ここは関東大震災や空襲被害を受けた所なので、倒壊した建物の遺跡もいくつか残されている。園のランドマークにもなっている三重塔は、京都・木津川の燈明寺にあった室町時代建築のもので、大正3年に移築された。室町の建築はともかく、大正3年からこの本牧の三溪園にある……という方に感動する。つまりこの塔は、大正12年の震災にも、昭和20年の空襲にも耐えたのだ。三溪園を後に、中華街へ向かった。当日は旧正月最中の日曜日ということもあって、街路は一段と混み合っている。おもえば、この界限も明治の中国人貿易商の居留地から発展した所。絹貿易の商談をする原三溪の姿を想像しつつ、旨そうな店を探した。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『大東京23区散歩』(講談社)がある。